

いま見える未来は、超えていける。

安田倉庫は、挑戦を続けます。

国境も、従来の物流の枠も超える、ボーダレスなロジスティクスカンパニーへと進化するために。

そして、お客様が思い描く事業と社会の新しいかたちを創造するために。

2023年3月期 決算説明会資料

安田倉庫株式会社（東証プライム：9324）

代表取締役社長 藤井信行

2023年5月19日

YASDA

Logistics, Progress, Borderless.

目次

1. 2023年3月期 通期の実績	… 2
2. 2024年3月期 通期の見通し	…12
3. 中期経営計画の進捗	…14
4. 株主還元	…32
<参考資料>	
安田倉庫について	…34
業界環境データ集	…42

1.

2023年3月期 通期の実績

当社業績

(単位：百万円)

	連結			前年同期比		対外公表予想対比	
	22年3月期	23年3月期	対外公表 業績予想	増減額	増減率	増減額	増減率
営業収益	53,040	59,756	58,000	6,716	12.7%	1,756	3.0%
営業利益	2,910	2,534	2,750	△375	△12.9%	△215	△7.9%
経常利益	4,037	3,776	3,800	△261	△6.5%	△23	△0.6%
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,873	2,245	2,300	△627	△21.8%	△54	△2.4%
営業利益率	5.5%	4.2%	4.7%	△1.3pt	-	△0.5pt	-
1株当たり 当期純利益(円)	99.24	77.54	79.42	△21.69	△21.9%	△1.88	△2.4%

	22年3月期 末	23年3月期 末		増減額	増減率
総資産	159,082	166,005	-	6,922	4.4%
純資産(*)	86,166	88,622	-	2,456	2.9%
自己資本比率(*)	54.0%	53.2%	-	△0.8pt	-
1株当たり純資産(円) (*)	2,963.81	3,046.69	-	82.9	2.8%

(*)2022年2月実施のハイブリッドローン150億円のうち、75%(112.5億円)をみなし資本として算出

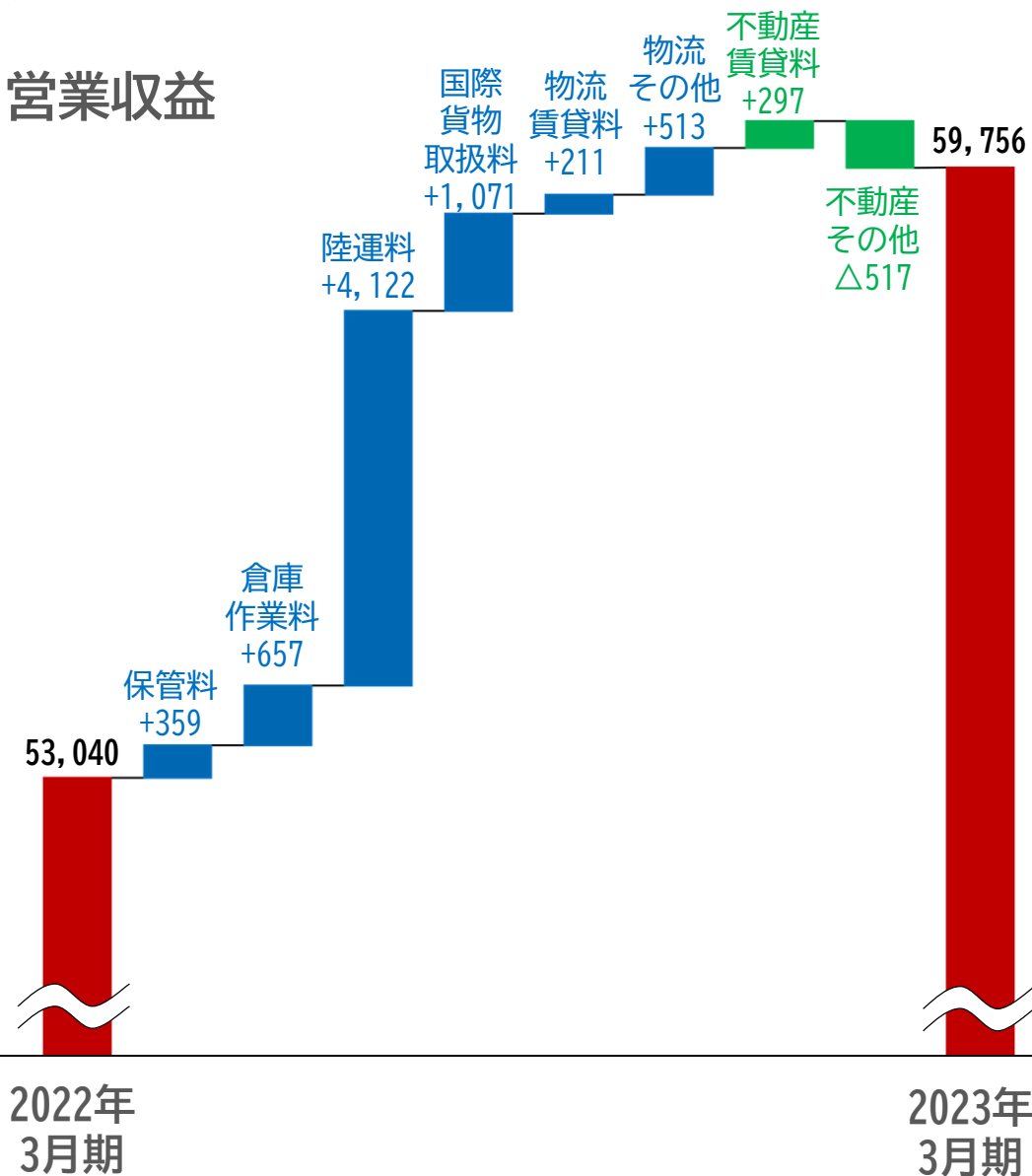
セグメント別業績

(単位：百万円)

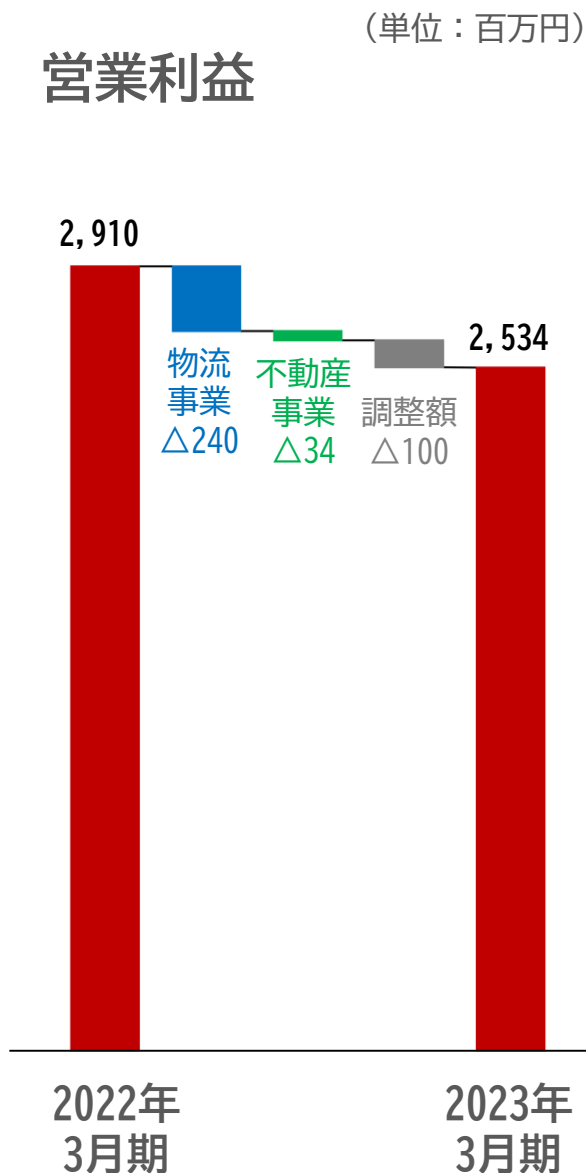
	営業収益				営業利益			
	22年 3月期	23年 3月期	前年 同期比 増減額	前年 同期比 増減率	22年 3月期	23年 3月期	前年 同期比 増減額	前年 同期比 増減率
物流事業	46,852	53,784	6,931	14.8%	3,199	2,958	△240	△7.5%
不動産事業	6,779	6,525	△253	△3.7%	2,096	2,062	△34	△1.6%
調整額	△591	△552	39	-	△2,385	△2,486	△100	-
計	53,040	59,756	6,716	12.7%	2,910	2,534	△375	△12.9%

変動要因

営業収益



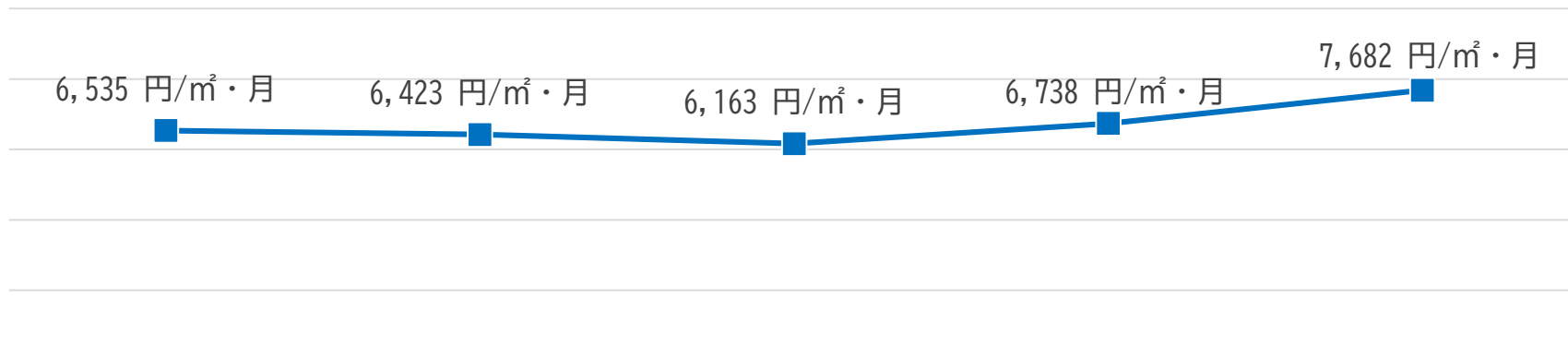
営業利益



物流事業 物流施設推移

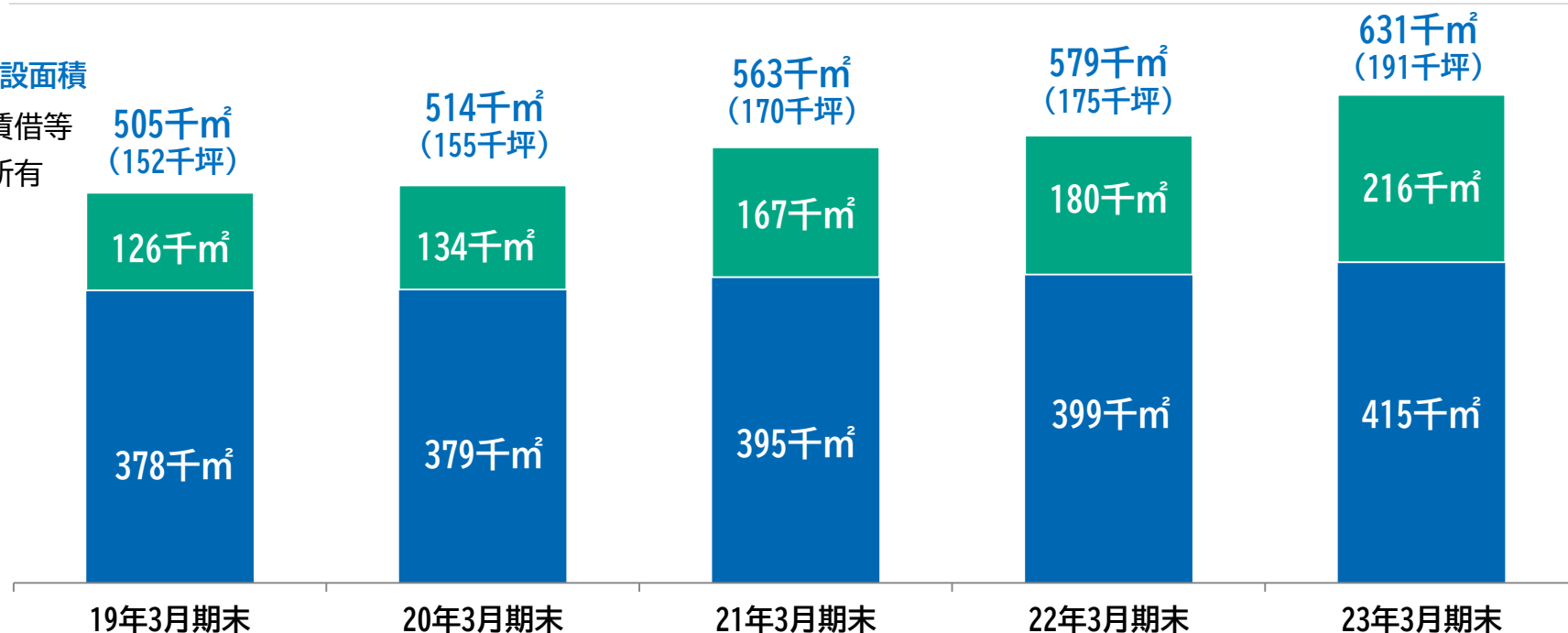
1㎡あたり物流事業収益

19年3月期～23年3月期：通期物流事業収益÷期末物流施設面積÷12カ月



物流施設面積

■ 賃借等
■ 所有



※23年3月期の1㎡あたり物流事業収益には、23年3月子会社化のイーザイ物流(株)の連結前の23年3月期営業収益相当分を算入しております。

物流事業 科目別収益

(単位：百万円)

科目	概況	22年 3月期	23年 3月期	前年 同期比 増減額	前年 同期比 増減率
保管料	➢新規取引開始、既存顧客取引拡大に伴う既存物流施設の稼働率向上等により前期比増収	8,192	8,551	359	4.4%
倉庫 作業料	➢新規取引開始、既存顧客取引拡大に加え、大口流通加工、キitting案件受託により前期比増収	8,320	8,977	657	7.9%
陸運料	➢22年3月期にグループ化の南信Gの通期寄与や新たな運送拠点開設等、輸配送ネットワーク拡充により前期比大幅増収	17,731	21,854	4,122	23.3%
国際 貨物 取扱料	➢海上運賃の高騰や航空輸送取扱増加、在来船輸送業務好調により前期比大幅増収	7,932	9,003	1,071	13.5%
物流 賃貸料	➢南信G寄与通期寄与等で前期比増収	1,620	1,832	211	13.1%
物流 その他	➢原薬販売や物流付帯業務増により前期比増収	3,033	3,547	513	16.9%

業界環境（物流）

倉庫（保管残高）

在庫積み増し傾向

保管残高(t) 前年同期比 + 5.2%
※倉庫21社統計22年4~12月

倉庫（入庫高・出庫高）

荷動きは微減

入庫高(t) 前年同期比△ 0.2%
出庫高(t) 前年同期比△ 1.3%
※倉庫21社統計22年4~12月

国内輸送（自動車輸送・宅配）

国内輸送量は微減も宅配は堅調

自動車輸送(t) 前年同期比△ 1.4%
宅配個数 前年同期比 + 1.2%
※国交省統計22年4月~23年2月

輸出入（海上・航空）

海上：輸入増・輸出減（京浜港）

輸入(TEU) 前年同期比 + 0.9%
輸出(TEU) 前年同期比△ 1.2%
※東京都・横浜市港湾統計22年4月~23年1月

航空：輸出入減（2019年並）

輸入(t) 前年同期比△ 15.2%
輸出(t) 前年同期比△ 19.4%
※航空貨物運送協会統計22年4月~23年3月

不動産事業 科目別収益

(単位：百万円)

科目	概況	22年 3月期	23年 3月期	前年 同期比 増減額	前年 同期比 増減率
不動産 賃貸料	<p>➢東京地区・横浜地区 各地区市況を大きく 下回る空室率の維持 により、前期比増収</p>	4,461	4,759	297	6.7%
不動産 その他	<p>➢22年3月期に計上の 大規模施工工事相当 について前期比減収</p>	1,748	1,230	△517	△29.6%

業界環境（不動産）

東京・横浜不動産動向

東京：空室率高止まり・賃料減
 22年3月空室率6.4% 賃料¥20,366/坪
 23年3月空室率6.4% 賃料¥19,991/坪
 (±0.0pt) (△1.8%)

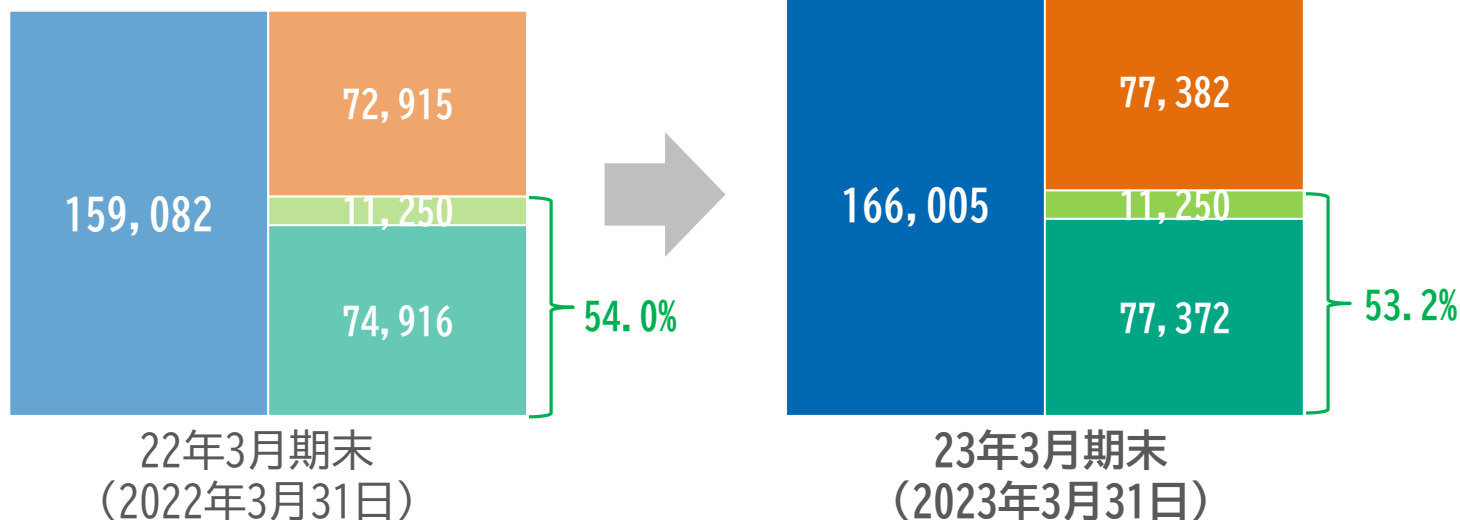
横浜：空室率高止まり・賃料横ばい
 22年3月空室率4.6% 賃料¥12,411/坪
 23年3月空室率4.7% 賃料¥12,453/坪
 (+0.1pt) (+0.3%)

※三鬼商事(株)市況・データ情報

連結財政状態

(単位：百万円)

注：%表記は自己資本比率



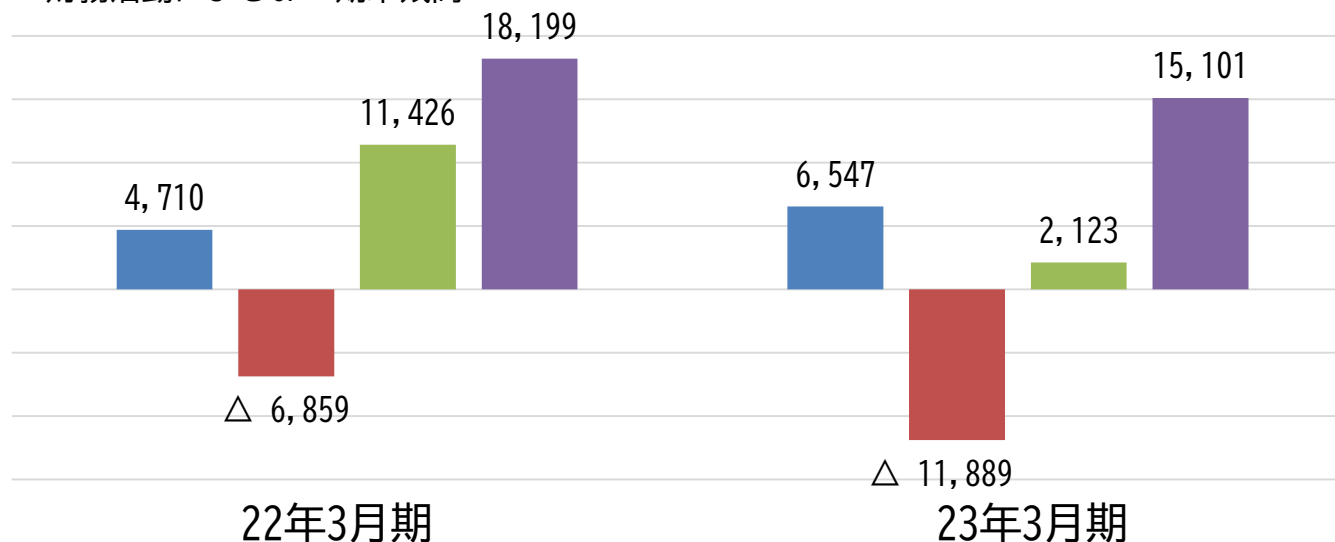
主な要因

■ 総資産	のれん	(+ 3,898百万円)
	建設仮勘定	(+ 2,888百万円)
	受取手形及び営業未収金	(+ 1,188百万円)
	現金及び預金	(△ 3,085百万円)
■ 負債	短期借入金	(+ 5,950百万円)
	長期借入金(1年以内返済分含む)	(△ 2,750百万円) ※みなし資本分除く
■ 純資産	みなし資本(*)	(± 0百万円)
	利益剰余金	(+ 1,503百万円)

(*)2022年2月実施のハイブリッドローン150億円のうち、75%(112.5億円)をみなし資本として算出

キャッシュ・フローの状況

■ 営業活動によるCF ■ 投資活動によるCF (単位：百万円)
■ 財務活動によるCF ■ 期末残高



	22年3月期	23年3月期	前期比	主な要因
営業活動によるCF	4,710	6,547	+1,837	減価償却費の資金留保や当期純利益による収入など
投資活動によるCF	△6,859	△11,889	△5,030	有形・無形固定資産、新たにグループ入りした子会社株式の取得
財務活動によるCF	11,426	2,123	△9,303	短期借入れによる収入など
期末残高	18,199	15,101	△3,098	

設備投資・借入金

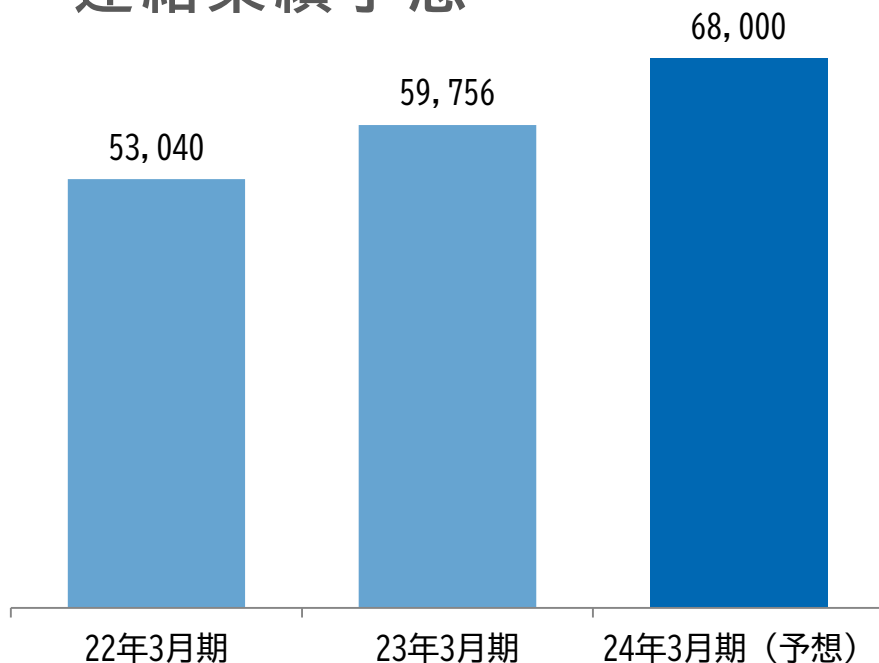
(単位：百万円)

	22年3月期	23年3月期	24年3月期 (計画)
設備投資額	6,538	6,058	11,925
主な投資案件	<u>23年3月期</u> <ul style="list-style-type: none"> ・倉庫建設（北大桑） ・基幹システムへの投資 ・既存物流・不動産施設の設備更新 	<u>24年3月期</u> <ul style="list-style-type: none"> ・倉庫建設（北大桑） ・DX・システムへの投資 ・既存物流・不動産施設の設備更新 	
減価償却費	3,401	3,603	3,630
期末借入金残高 及び社債発行残高	56,156	59,294	65,750

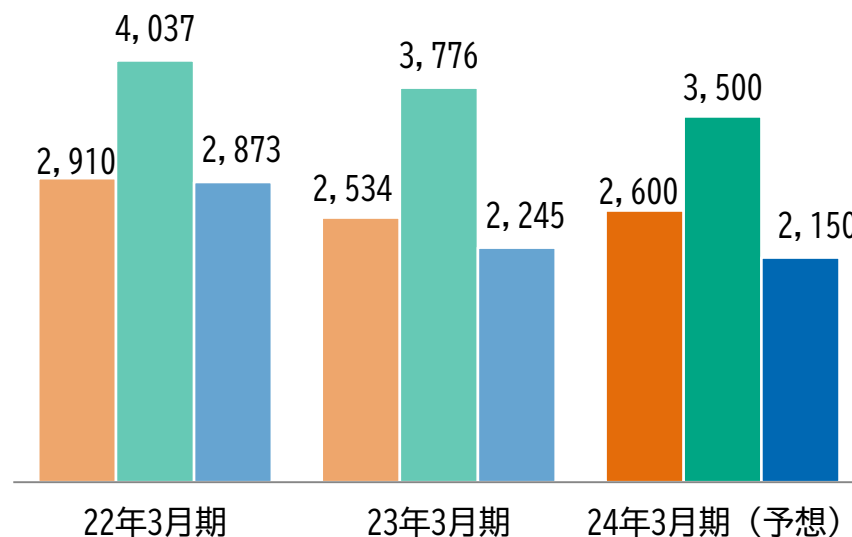
2.

2024年3月期 通期の見通し

連結業績予想



(単位：百万円)



前期比		
	増減額	増減率

■ 営業収益 8,243 13.8%

前期比		
	増減額	増減率

■ 営業利益	65	2.6%
■ 経常利益	△276	△7.3%
■ 親会社株主に 帰属する 当期純利益	△95	△4.3%

- 営業収益は、取引拡大による既存施設の収益力向上や新たに安田倉庫グループ入りした関係会社の収益寄与を見込む。
- 物流施設新設やリニューアル関連の費用等により、経常利益・当期純利益では減益も、営業利益は増益に反転させる計画。

3.

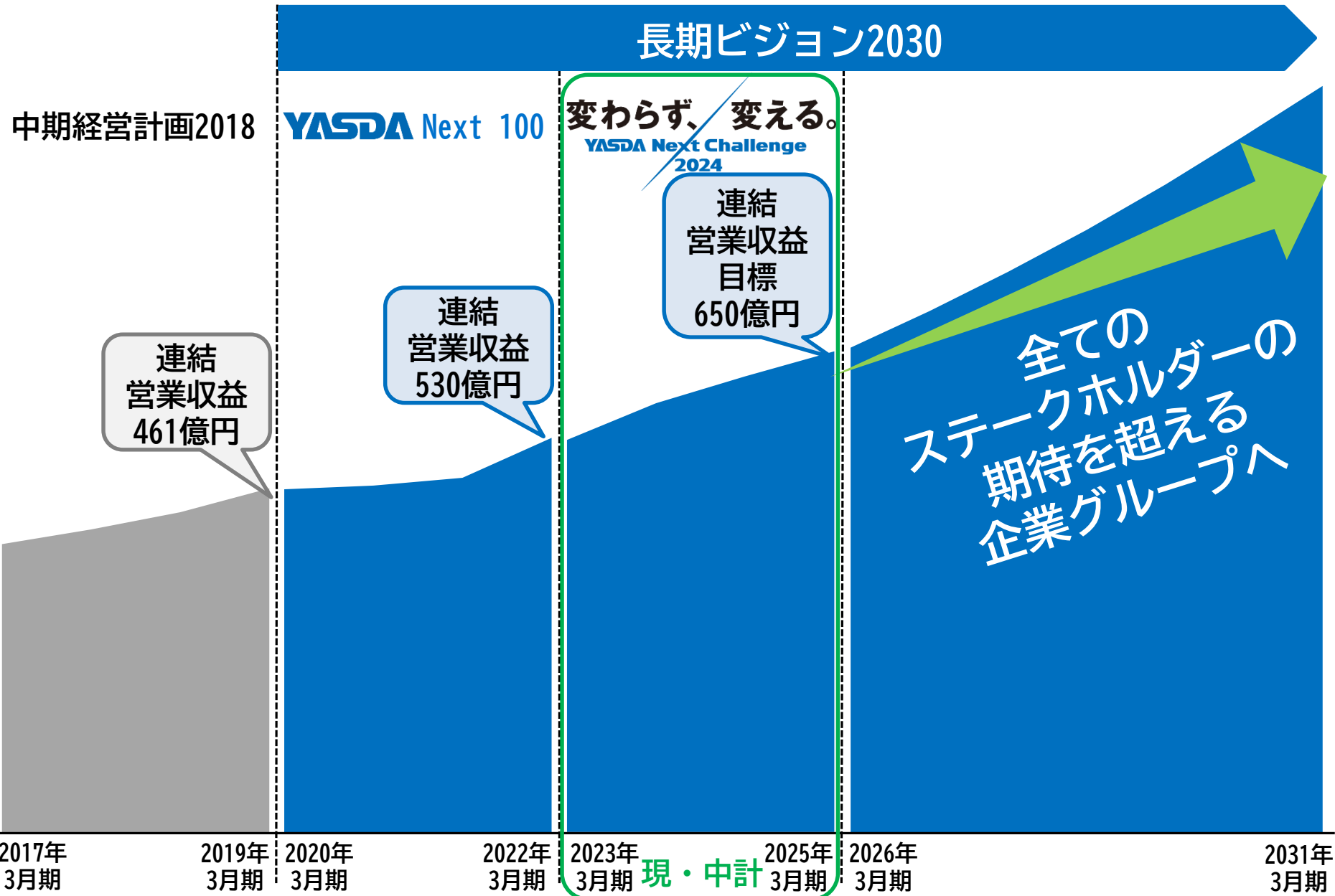
中期経営計画の進捗

長期ビジョン2030

世界に誇れるYASDAブランドと革新的テクノロジーの融合で
全てのステークホルダーの期待を超える企業グループを目指す



長期ビジョン2030



2022年度～2024年度中期経営計画の概要

変わらず、変える。

YASDA Next Challenge 2024

● 基本方針

最先端テクノロジーと人間力を融合した、
「YASDA Value」で多様化する社会とお客様ニーズに応える。

YASDA Value = お客様の声に真摯に耳を傾け誠実にお応えする安田倉庫グループで共有する価値

● 基本目標

(単位：百万円)

	22年 3月期	中計最終年度 目標 (25年3月期)	増加額	増加率
営業収益	53,040	65,000	11,959	22.5%
営業利益	2,910	4,000	1,089	37.5%
経常利益	4,037	4,800	762	18.9%
営業 利益率	5.5%	6.2%	0.7pt	-

物流

お客様のビジネス環境に合わせた
最適なサービス提供と、
既存の物流の領域に捉われない
新サービスの創造

不動産

保有不動産の再開発による
収益基盤の更なる強化

経営インフラ

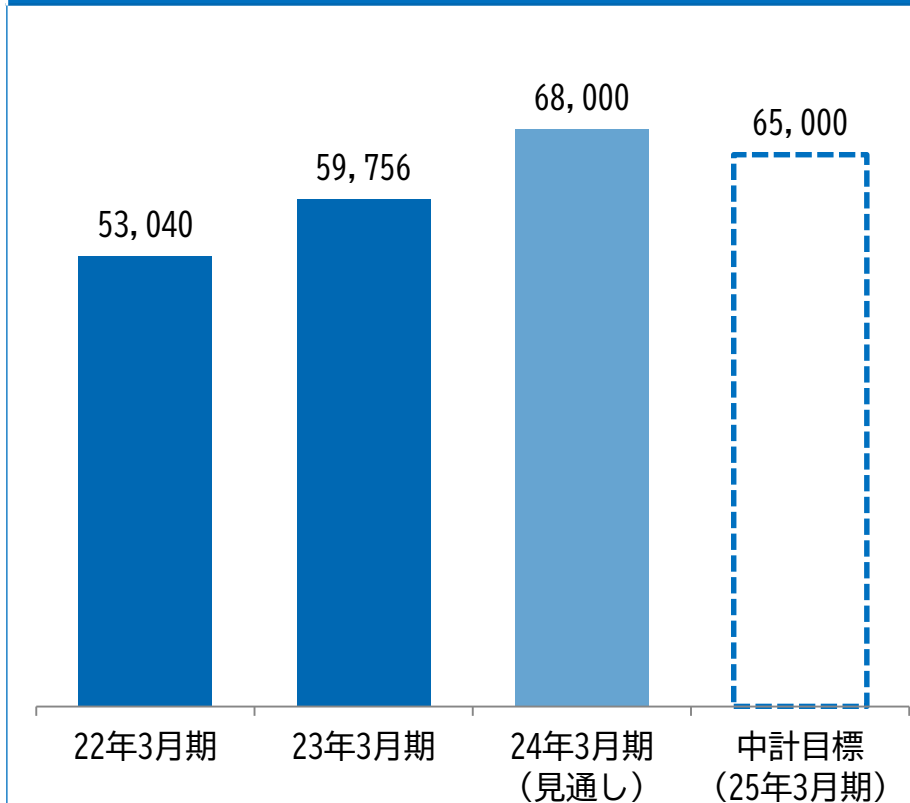
社会環境の変化にも
柔軟に対応できる
サステナビリティ経営基盤と、
確固たる現場力・人間力の確立

中計期間において、計360億円（物流事業280億円、不動産事業40億円、DXおよびシステム40億円）の投資を計画

中期経営計画業績進捗

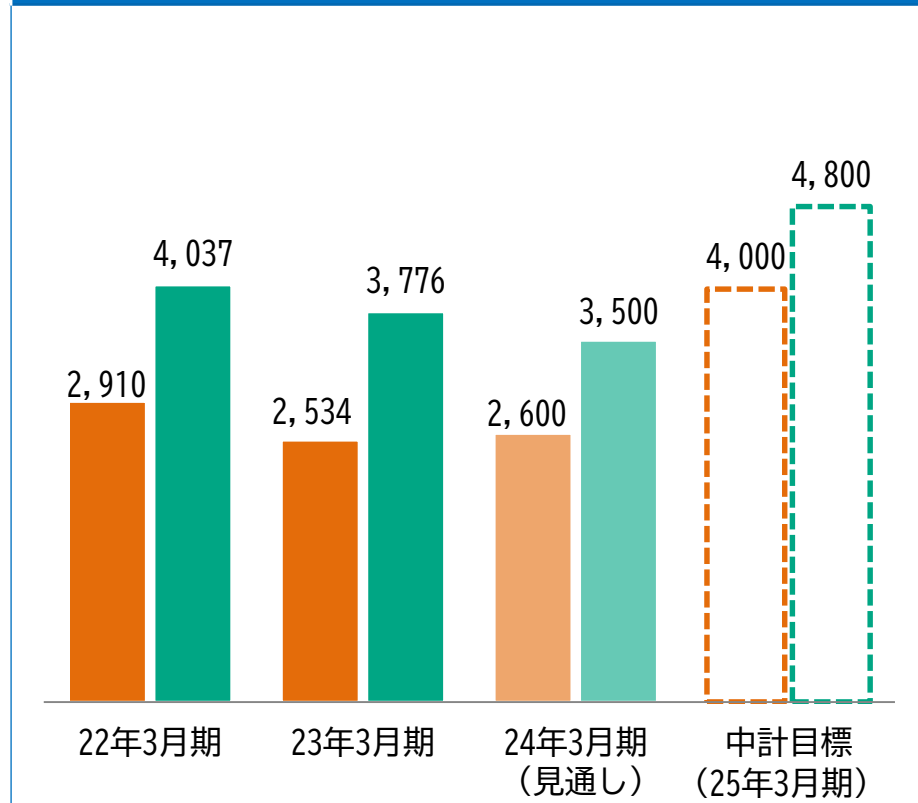
(単位：百万円)

営業収益



	22年3月期	23年3月期	24年3月期見通し	中計目標 (25年3月期)
■ 営業収益 ()内は進捗率	53,040 (81.6%)	59,756 (91.9%)	68,000 (104.6%)	65,000

営業利益・経常利益



	22年3月期	23年3月期	24年3月期見通し	中計目標 (25年3月期)
■ 営業利益 ()内は進捗率	2,910 (72.8%)	2,534 (63.4%)	2,600 (65.0%)	4,000
■ 経常利益 ()内は進捗率	4,037 (84.1%)	3,776 (78.7%)	3,500 (72.9%)	4,800

中期経営計画の実現に向けて

物流拠点の更なる拡充（九州新拠点の開設）

2022年9月、九州の新物流拠点として「九州営業所 第二倉庫」開設



九州営業所

福岡県三井郡大刀洗町
大字高樋1708番地4
2017年7月開設



九州営業所 第二倉庫

福岡県小郡市山隈308
プロロジスパーク小郡 福岡ロジテム内
2022年9月開設

一体運営により
九州における物流ニーズへの対応力や
九州全域向けの配送機能の強化を図る

中期経営計画の実現に向けて

物流拠点の更なる拡充（加須新倉庫の新設）

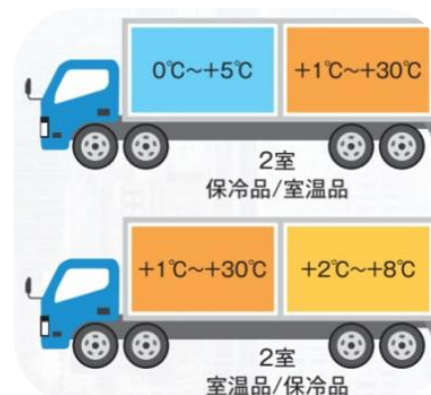
医薬品専用の輸配送網と、医薬品管理に必要なGDPを備えた新たな医薬品物流拠点を建設中



所在地	埼玉県加須市北大桑
敷地面積	約21,400㎡（約6,400坪）
延床面積	約41,700㎡（約12,600坪）
主要構造	鉄骨造（免震構造）
階数	倉庫4階建



医薬品専用車両



医薬品特性に合わせた二層式車両

中期経営計画の実現に向けて

物流拠点の更なる拡充（羽田メディカルロジスティクスセンターの新設）

医療機器総合ワンストップサービスの提供拠点として
東雲、辰巳に続く新拠点を羽田空港至近エリアに設置予定



物流事業者として初の医療機器修理業許可
（修理区分特管第1～8区分まで）取得により
医療機器総合ワンストップサービスが実現

2020年 東京メディカルロジスティクスセンターⅠ
（東雲営業所）開設



2021年 東京メディカルロジスティクスセンターⅡ
（辰巳倉庫）開設



今後 羽田メディカルロジスティクスセンター
（〔仮称〕羽田営業所）開設予定



イメージ図

中期経営計画の実現に向けて

MA・アライアンス戦略（メディカル）

医薬品・医療機器のノウハウの融合を通じたメディカル物流の更なる強化

23年3月、エーザイ物流のグループ会社化



エーザイ物流本社・厚木センター

エーザイグループ製品の物流関連業務や、ほか医薬品メーカーの物流業務を担うエーザイ物流と安田倉庫グループが有する医薬品物流ノウハウ、物流施設、配送ネットワークを組み合わせることで、国内屈指の医薬品物流プラットフォームを構築し安定した総合メディカルサービスの提供を目指します。

22年11月、ニューロシューティカルズへの出資



ニューロシューティカルズが取り扱うCTスキャン

大学・研究機関等から医療分野における様々なニーズを汲み取り、治療・診断機器の開発から日本国内での製造支援、海外からの輸入調達を行う医療機器開発ベンチャーであるニューロシューティカルズへの出資を通じ、メディカル物流サービスの拡充や更なる業容の拡大を目指します。

中期経営計画の実現に向けて

MA・アライアンス戦略（国内ネットワーク）

運送系4社の更なる連携強化による国内輸配送ネットワークの拡充

23年4月、Y S O L o g i のグループ会社化



Y S O L o g i の本社倉庫（京都）

京都府八幡市を中心に運送業、倉庫業を展開するY S O L o g i（旧社名：OSO）と当社が有する物流ネットワークを共有することで生まれるシナジーにより、倉庫・輸配送ネットワークとサービスメニューの更なる拡充を目指します。



大西運輸
車両台数：272台
主なエリア
北陸



南信貨物自動車
車両台数：290台
※パワード・エル・コム分含む
主なエリア
甲信・関東・中京



Y S O L o g i
車両台数：60台
主なエリア
関西・関東・九州



安田運輸
車両台数：121台
主なエリア
関東・関西・中京
・九州・東北

中期経営計画の実現に向けて

MA・アライアンス戦略（海外ネットワーク）

各現地法人における新たな地域・事業領域への拡大と、シンガポール、タイ、インドなどアジア太平洋地域における新たな拠点展開を目指す

<中国>

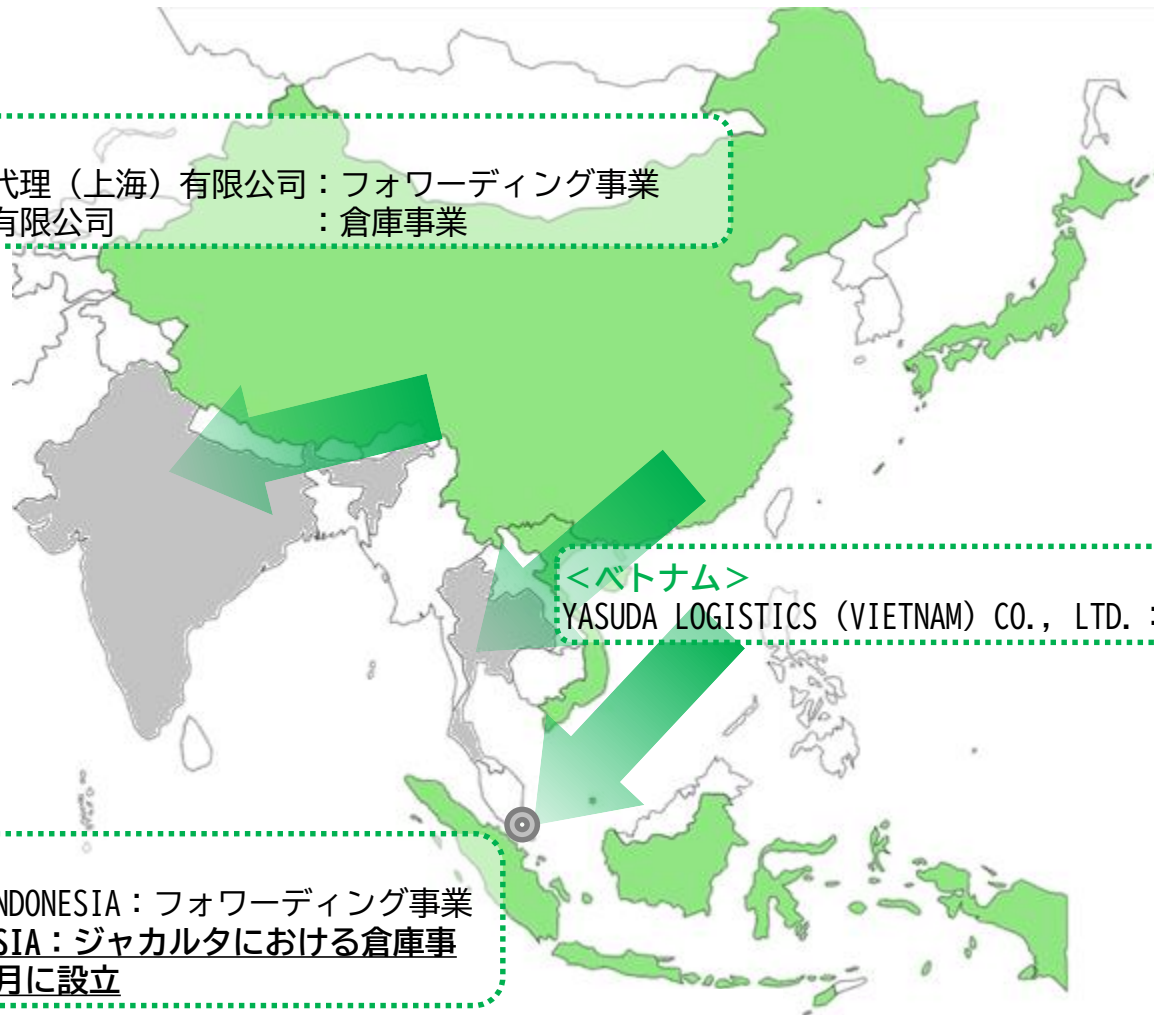
安田中倉国際貨運代理（上海）有限公司：フォワーディング事業
安田物流（上海）有限公司：倉庫事業

<ベトナム>

YASUDA LOGISTICS (VIETNAM) CO., LTD.：フォワーディング事業

<インドネシア>

PT YASUDA LOGISTICS INDONESIA：フォワーディング事業
PT JAYA YASUDA INDONESIA：ジャカルタにおける倉庫事業の開始を目指し23年3月に設立



中期経営計画の実現に向けて

変化する社会のニーズに応じた物流サービスの拡大①

テレワークの浸透を背景に成長するIT機器ライフサイクルマネジメント

調達処理はお客様にて対応頂きますが、
その他のライフサイクルにおける業務について
トータルでご支援致します。



企業において近年増加する、PC、スマートフォン、タブレットなどのIT機器の管理運用業務について、資産・在庫管理、キットティング、設置・導入、運用・保守、回収、データ消去、廃棄といったライフサイクルにかかる一連の業務をお引き受けする「IT機器ライフサイクルマネジメント」サービスを提供しております。



PCキットティング



スマートフォン
キットティング

中期経営計画の実現に向けて

変化する社会のニーズに応じた物流サービスの拡大②

企業の自社ECによる販売戦略をサポートするECセンター

ノウハウ

ギフト商戦に強い自社ECを可能にする
流通加工サービス



ギフト包装



メッセージカード同封



システム

EC固有の様々なニーズに対応できる
EC専用倉庫管理システムの開発



体制

平日・休日問わず短納期の実現のため
拠点集約による休日作業体制構築



22年4月、大黒営業所内に
ECセンターを開設

中期経営計画の実現に向けて

変化する社会のニーズに応じた物流サービスの拡大③

企業の働き方改革に貢献するBPOサービス



22年9月、芙蓉総合リースとBPOサービス事業分野において業務提携いたしました。業務提携の第一段として芙蓉総合リースのBPO事業関連子会社NOCアウトソーシング&コンサルティングが提供する総務アウトソーシングサービス「Somove（ソームーブ）」のサービスメニューとして、当社オフィスサポート事業の「文書保管サービス」、「オフィス移転サービス」が掲載されます。



※BPO=ビジネスプロセスアウトソーシング

芙蓉総合リースと共同で、バックオフィスの負荷軽減による働き方改革に貢献する新たなビジネスの展開を目指す

中期経営計画の実現に向けて

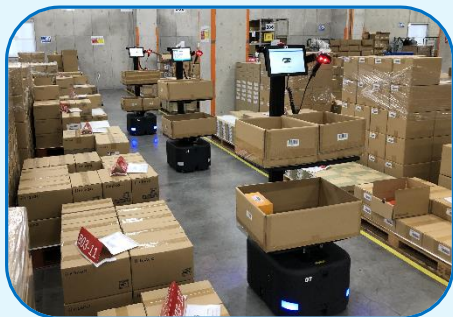
DX・新たなテクノロジーの活用

21年2月に設置したDX事業推進室のもと、先進的なシステム・新たなテクノロジーと、長年培ってきた物流ノウハウの融合により、持続可能なサービス提供と顧客の事業課題への新たなソリューションをもたらすべく、物流現場の省人化や様々な実証実験に取り組む

物流現場の省人化事例



重量貨物を積載したカゴ台車を搬送するAGV（自動搬送車）



作業者と協働して貨物のピックアップを行うAMR（自律走行搬送ロボット）



貨物の納品先毎に仕分け作業を行う次世代型ロボットソーター

冷蔵温度帯スワップボディコンテナ実証実験



















22年6月、中央倉庫、日本トレクス、フジトランスポートと共同で、国内初の冷蔵温度帯スワップボディコンテナの実証実験を実施。ドライバーの労務環境改善と、GDPに準拠しつつ持続可能な医薬品輸送の確立を目指しております。

中期経営計画の実現に向けて

サステナビリティ経営

22年2月、当社グループ内のサステナビリティを巡る各種課題に対する取り組みの推進機能強化と情報開示を目的として「サステナビリティ推進室」を新設し、当社グループの重要課題（マテリアリティ）を定め、持続可能な社会の実現と事業の継続的な発展の両立に向けて取り組む

マテリアリティ	特定されたESG課題	関連するSDGs
1 高品質で安全なサービスの提供による最適な社会環境の創造	<ul style="list-style-type: none">・事業を通じた課題解決・責任ある調達・品質への取り組み・地域社会への貢献	    
2 低炭素・循環型社会への貢献	<ul style="list-style-type: none">・気候変動への対応・廃棄物の発生抑制	    
3 多様な人材がゆとりと豊かさを体現できる職場の実現	<ul style="list-style-type: none">・人材育成・ダイバーシティの推進・人権の尊重・働きやすい職場環境作り・労働安全衛生	   
4 企業の社会的責任を深く認識した経営の実践	<ul style="list-style-type: none">・コーポレート・ガバナンス強化・コンプライアンス・株主・機関投資家との対話・大規模災害発生時の対応（BCP）・情報セキュリティ強化	 

中期経営計画の実現に向けて

気候変動への対応

情報開示

TCFD提言への賛同表明



22年6月TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）提言に賛同表明し、当社HP上で気候変動関連情報の開示を開始。具体的な開示内容は以下よりご覧ください。

[TCFD提言への取組み](#)



CDP スコア「C」の評価

企業に対して気候変動情報開示を求める国際イニシアチブであるCDP（Carbon Disclosure Project）より、「気候変動問題について自社への影響を考慮しており問題の内容を深く理解している。具体的な行動につなげるために重要な段階」として「C」スコアの評価をいただきました。今後も気候変動への対応深化に向けて取り組んで参ります。

取組み

東京都地球温暖化対策優良事業者 2022年度「SSランク」の評価



東京都内事業所の直近5か年度におけるCO₂排出量の平均削減率等が評価され、東京都より地球温暖化対策において「極めて優良な事業者」（SSランク）の評価を獲得しました。

CO₂の更なる削減に向けて

CO₂排出量の削減に向けグループ全体で取り組むために、算定ツール導入によるCO₂排出量の「見える化」や、CO₂を排出しない電力への切替を進めます。



CO₂排出量は、アスエネ株式会社の「アスゼロ」にて算出しています。



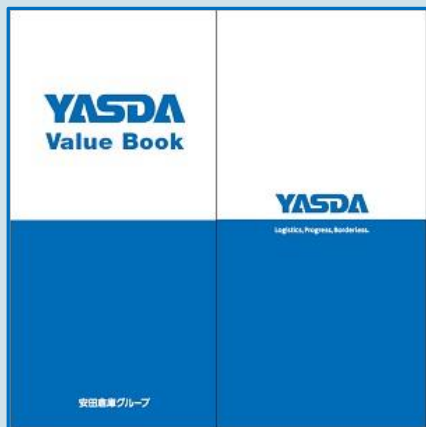
本年度中の、東京メディカルロジスティクスセンター（東雲営業所）屋上への太陽光発電設備設置を予定しております。

中期経営計画の実現に向けて

多様な人材が人間力を最大限発揮できる職場の実現

理念の浸透

YASDA Value Book



企業理念、行動指針、経営計画を体系的に整理し、安田倉庫グループの価値観、行動基準、目標を認識し、振り返る原点として、「YASDA Value Book」(日本語版・中国語版・英語版)を発行し、グループで働く全ての方に共有しています。

人材育成・ダイバーシティ

新人事制度導入



21年7月、職員の意識・行動を変える評価制度、多様な人材活用・働き方の推進、教育プロセスのブラッシュアップを行い現場力・企業力の強化を図る目的で、新人事制度を導入しました。

女性活躍推進

女性管理職割合10%以上(26年3月末)を掲げ、管理職候補への女性活躍研修や女性が働きやすい体制・環境整備を進めます。

キャリア採用者の積極登用

高い専門性や異業種での経験を有する多様な人材確保と、入社後のキャッチアップ研修による人材育成をおこなっております。

働きやすい職場環境整備

守屋町営業所 食堂リニューアル(22年4月)



倉庫営業所への カフェテリア設置



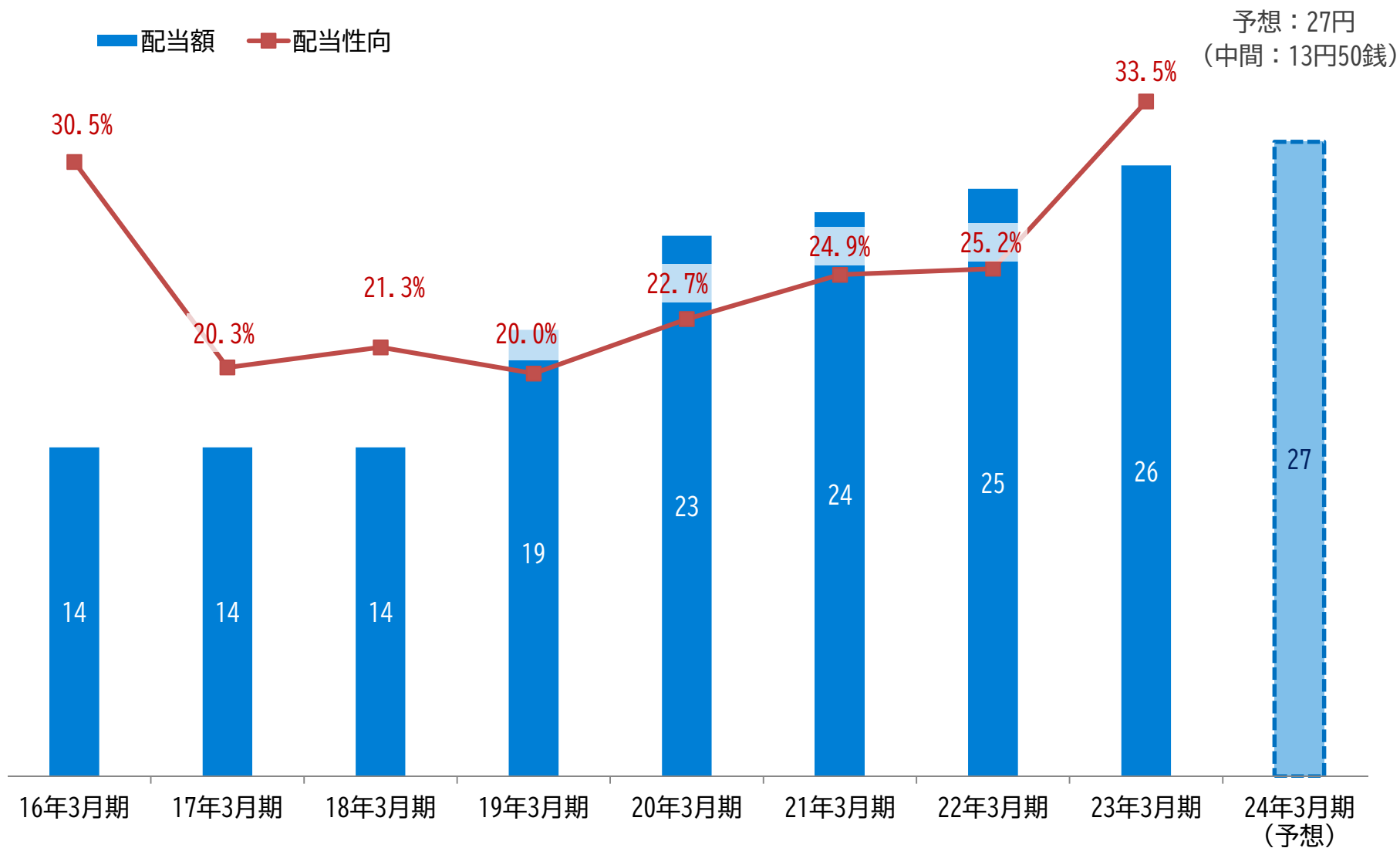
4.

株主還元

安定配当を基本としつつ利益水準等を勘案し決定

<基準日> ■ 中間配当：9月末
■ 期末配当：3月末

■ 配当額 ■ 配当性向



安田倉庫について

会社概要

会社名	安田倉庫株式会社 Yasuda Logistics Corporation
所在地	東京都港区芝浦三丁目1番1号 msb Tamachi 田町ステーションタワーN 29階
創立	1919年12月20日
代表者	代表取締役社長 藤井 信行
事業内容	倉庫業、運送事業、不動産業
資本金	3,602,100千円
市場	東証プライム（証券コード：9324）
従業員数	単体 466名 連結2,098名（2023年3月末）
連結子会社	21社（国内16社 海外5社）（2023年4月現在）
決算月	3月



msb Tamachi
田町ステーションタワーN

企業理念・コーポレートスローガン

安田倉庫グループ企業理念



安田倉庫コーポレートスローガン

Logistics, Progress, Borderless.

お客様と共にグローバルなロジスティクスカンパニーに成長すべく、当社グループが一体となり、その一人一人が従来の事業の枠にとらわれることなく常に発展・成長を続け、物流を進歩させていく決意を表しています。

100年を超える歴史

1919年

興亜起業(株)
として創立



安田善次郎



守屋此助

1942年

社名を
安田倉庫(株)
に改称



函館常備倉

2005年

東証1部
上場



2019年

創立100周年



大西運輸・オオニシ機工
のグループ化決定



大西運輸



オオニシ機工

2020年

東京メディカル
ロジスティクス
センター開設



2021年

東京メディカル
ロジスティクス
センターII開設



南信貨物自動車Gの
グループ化



2022年

東証
プライム
移行



2023年

イーザイ物流・
YSO Logiの
グループ化

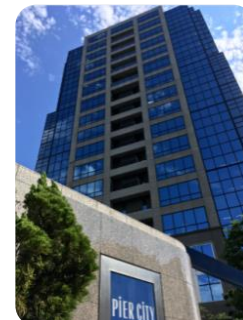


イーザイ物流



YSO Logi

様々なサービスを提供する総合物流企業

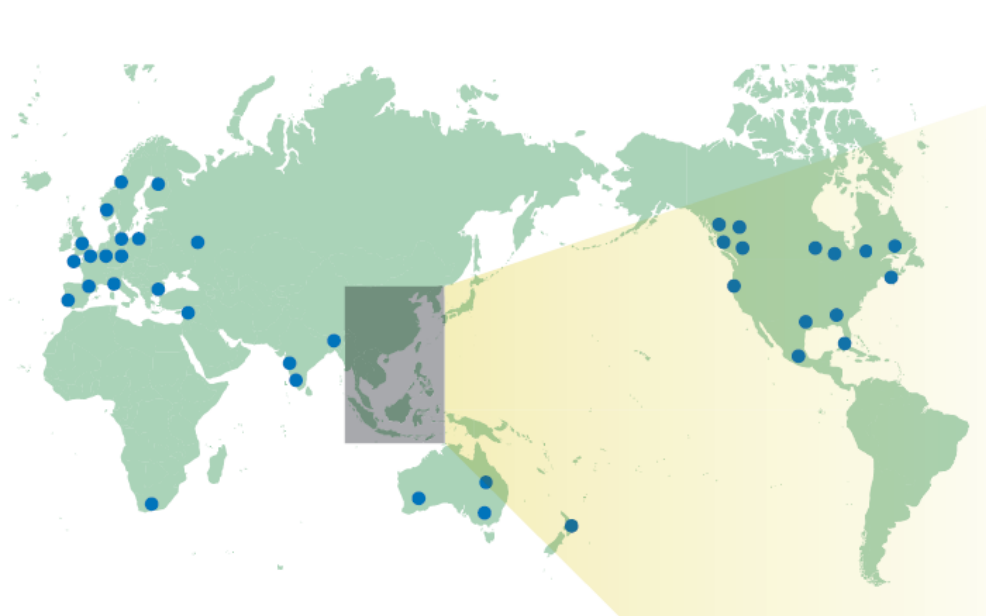


日本全国をカバーする国内ネットワーク

東西の主要拠点により持続的なサプライチェーンを提供



中国・ASEANを中心に世界各国へ展開するネットワーク

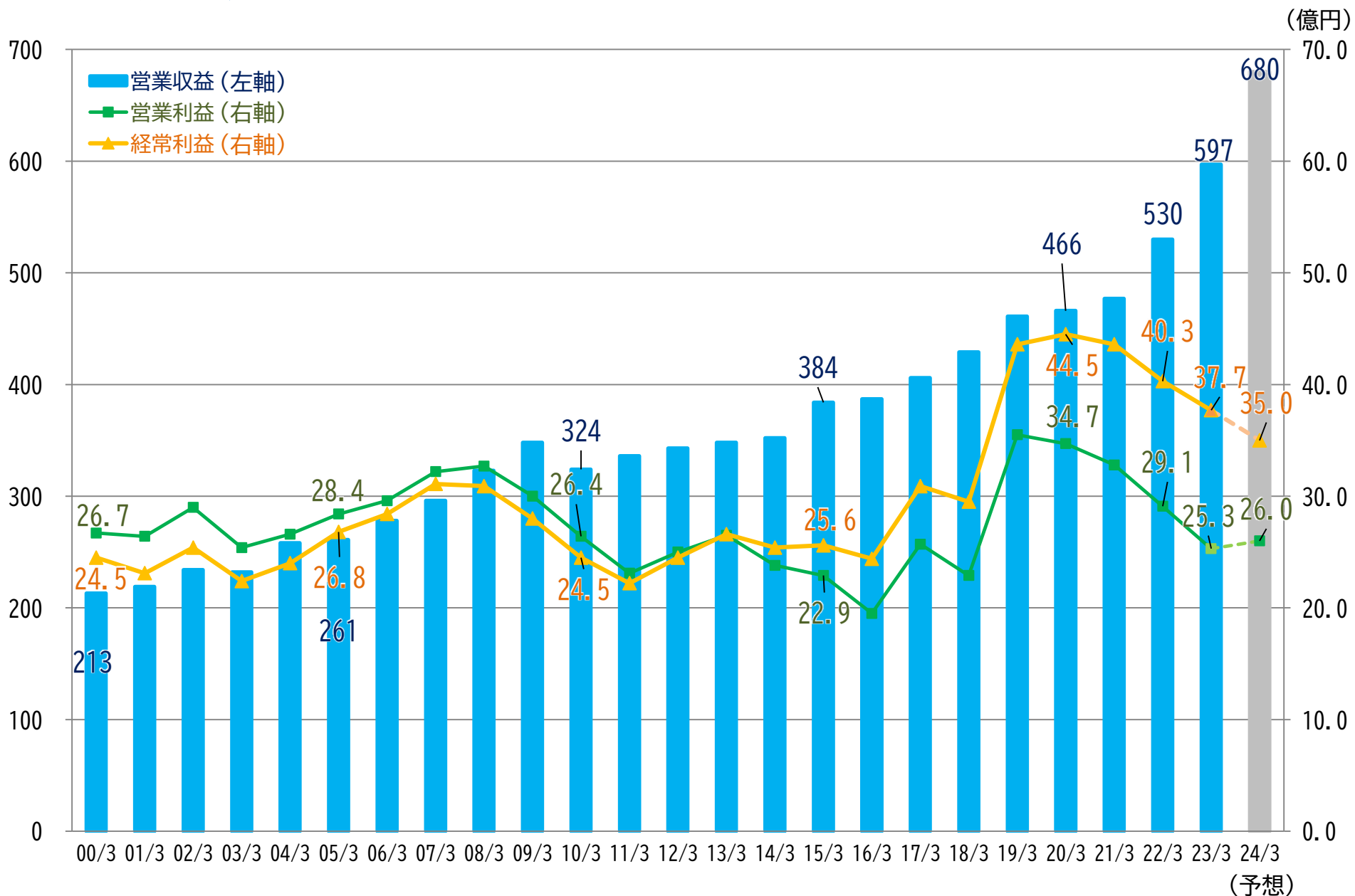


安田物流(上海)有限公司

中国・ASEAN 拡大図 ● 自社拠点 ● 代理店



業績推移

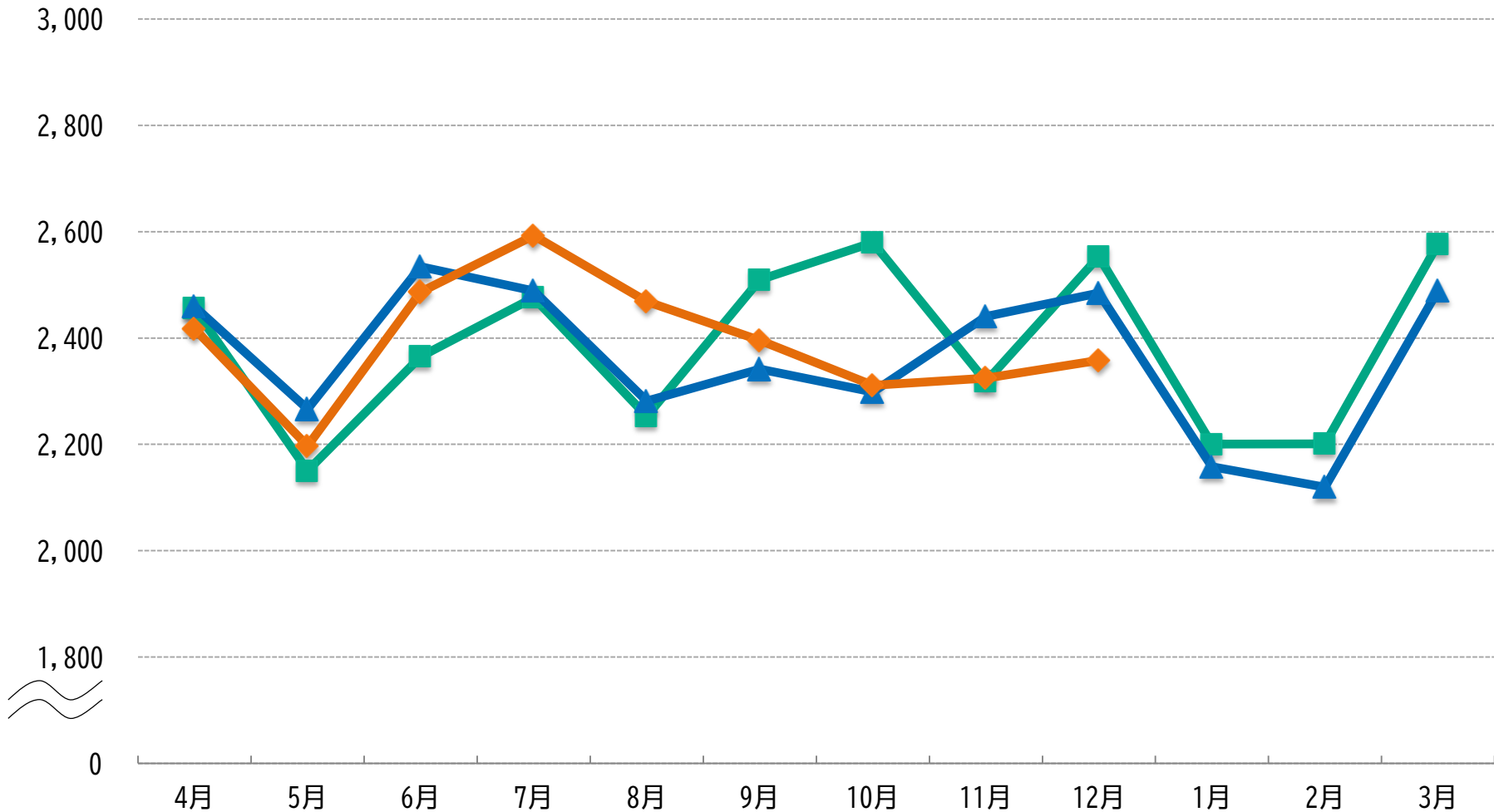


事業環境データ集

普通倉庫 21社統計 入庫高

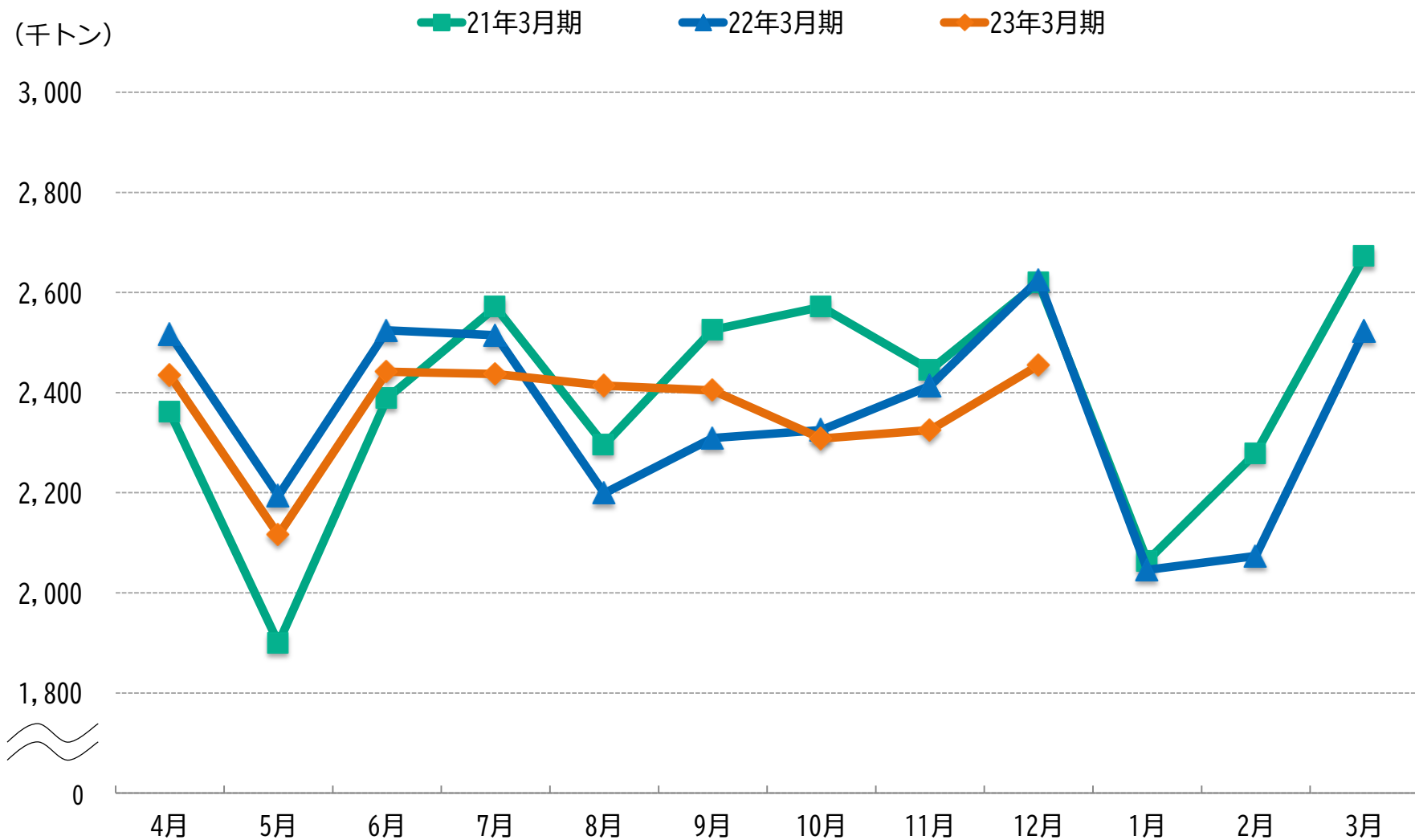
(千トン)

■ 21年3月期 ▲ 22年3月期 ◆ 23年3月期



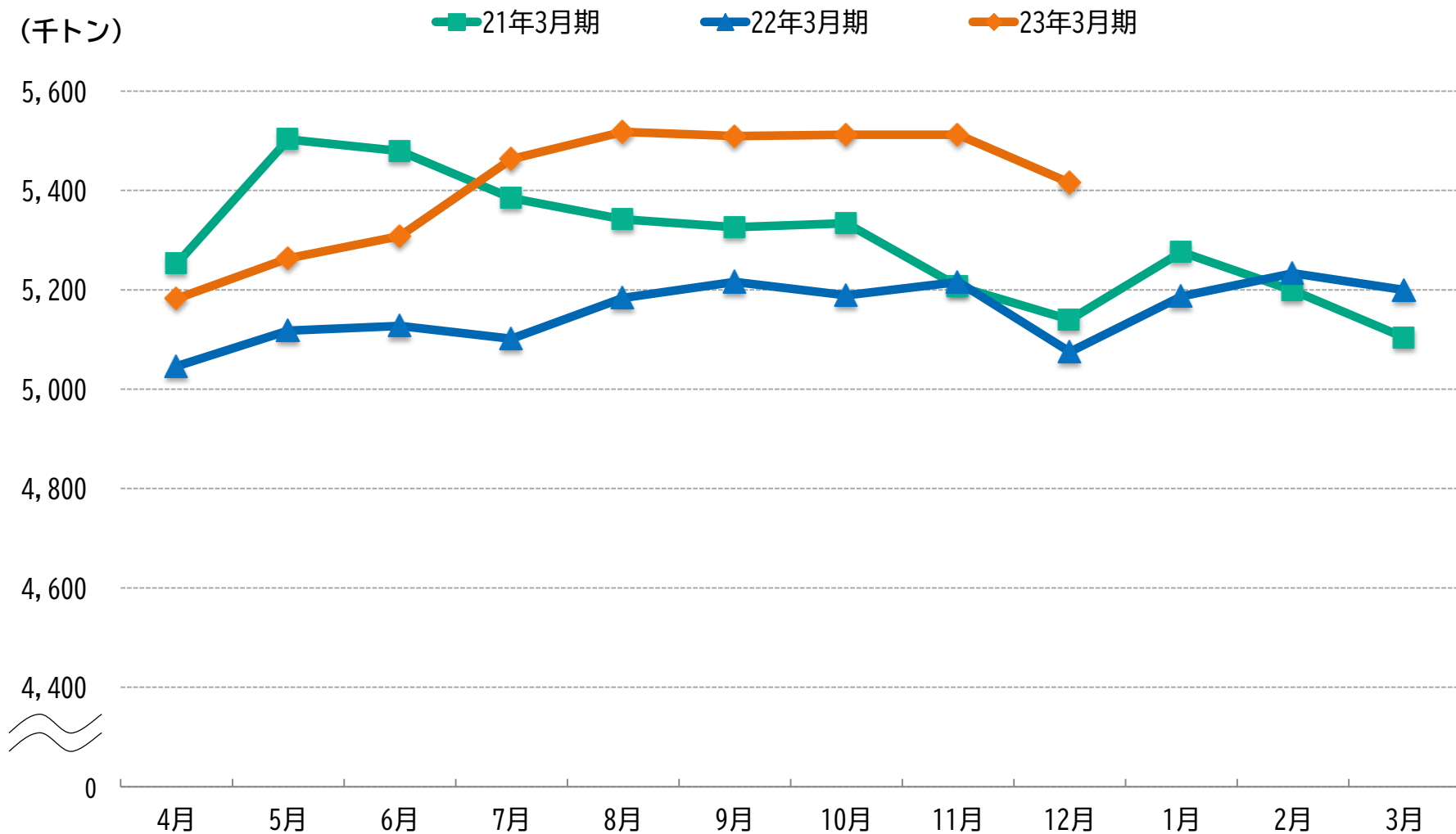
データ出典：一般社団法人 日本倉庫協会

普通倉庫 21 社統計 出庫高



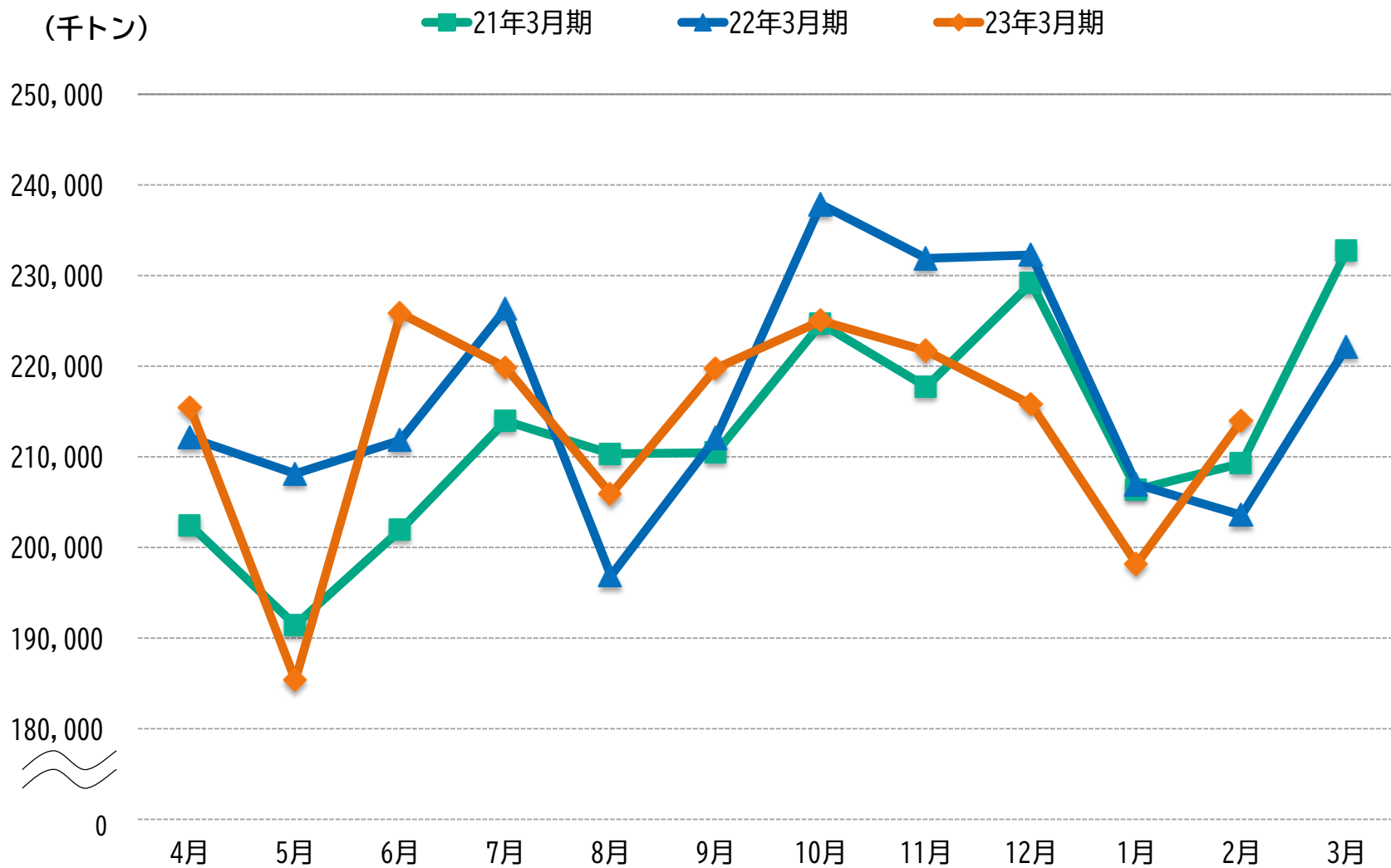
データ出典：一般社団法人 日本倉庫協会

普通倉庫 21 社統計 保管残高



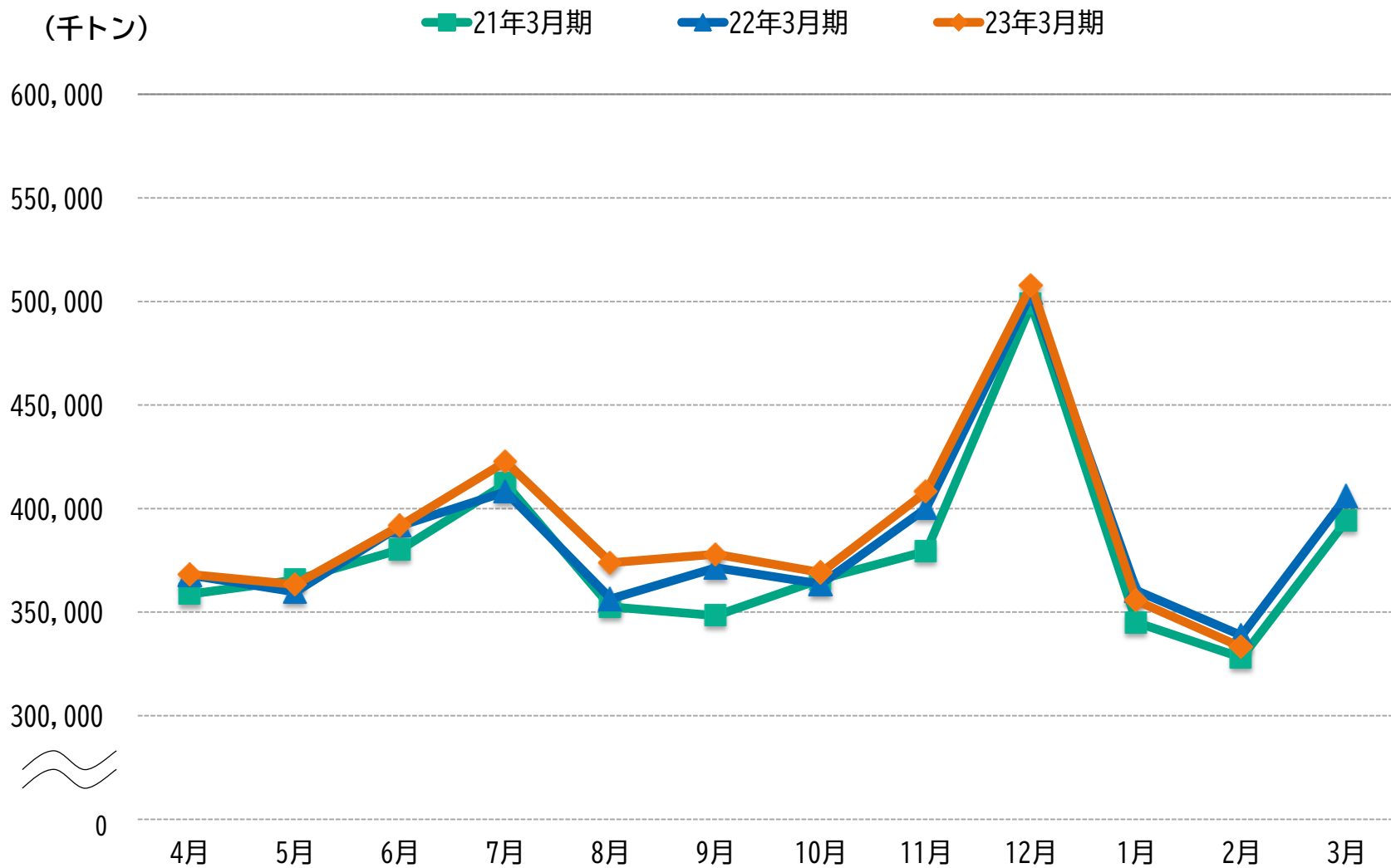
データ出典：一般社団法人 日本倉庫協会

営業用自動車貨物輸送トン数



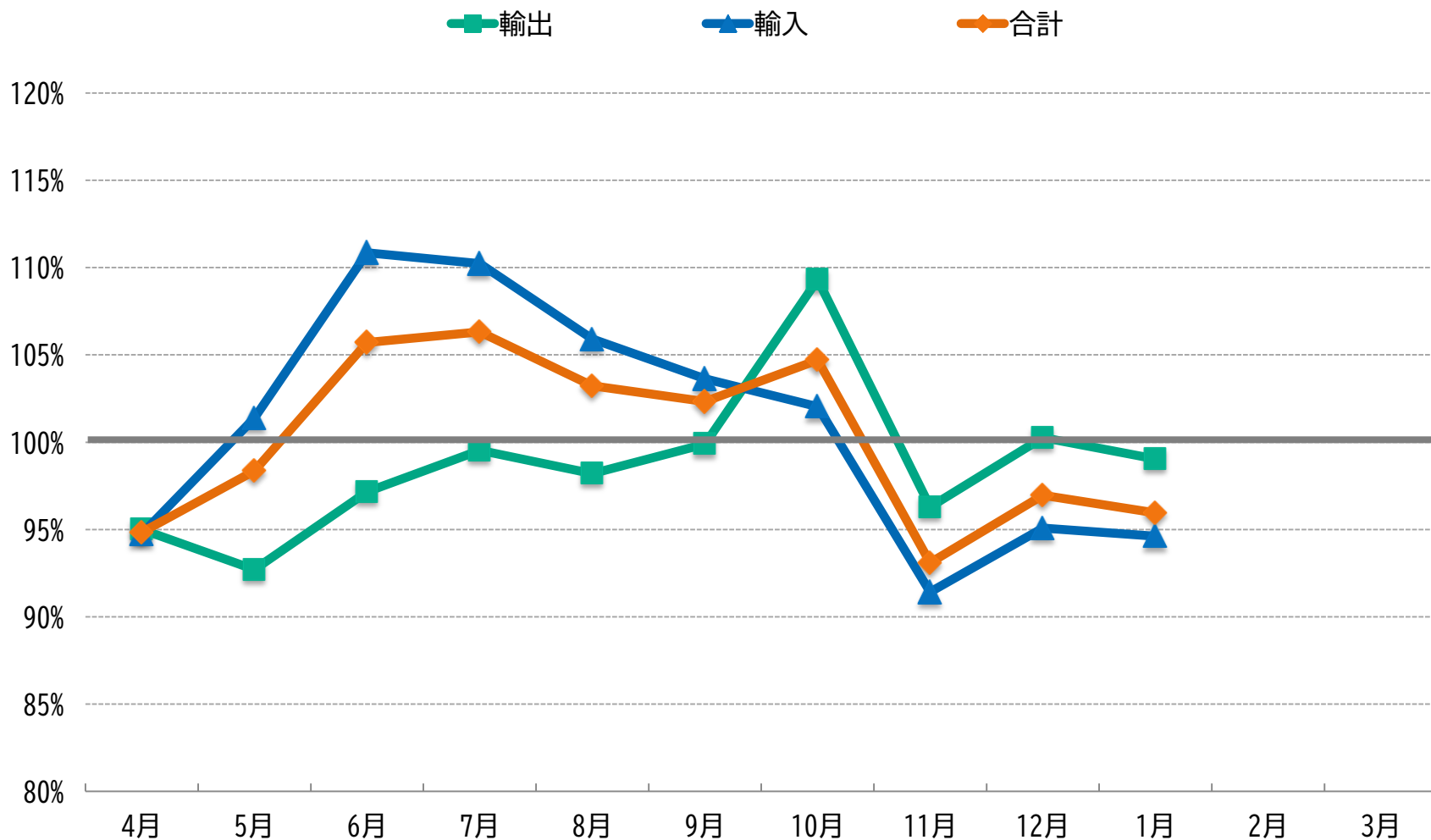
データ出典：国土交通省 自動車輸送統計調査

宅配便貨物取扱個数



データ出典：国土交通省 国土交通月例調査

京浜港コンテナ取扱本数 前年同月比



データ出典：東京都港湾局 港湾統計、横浜市港湾局 横浜港の統計

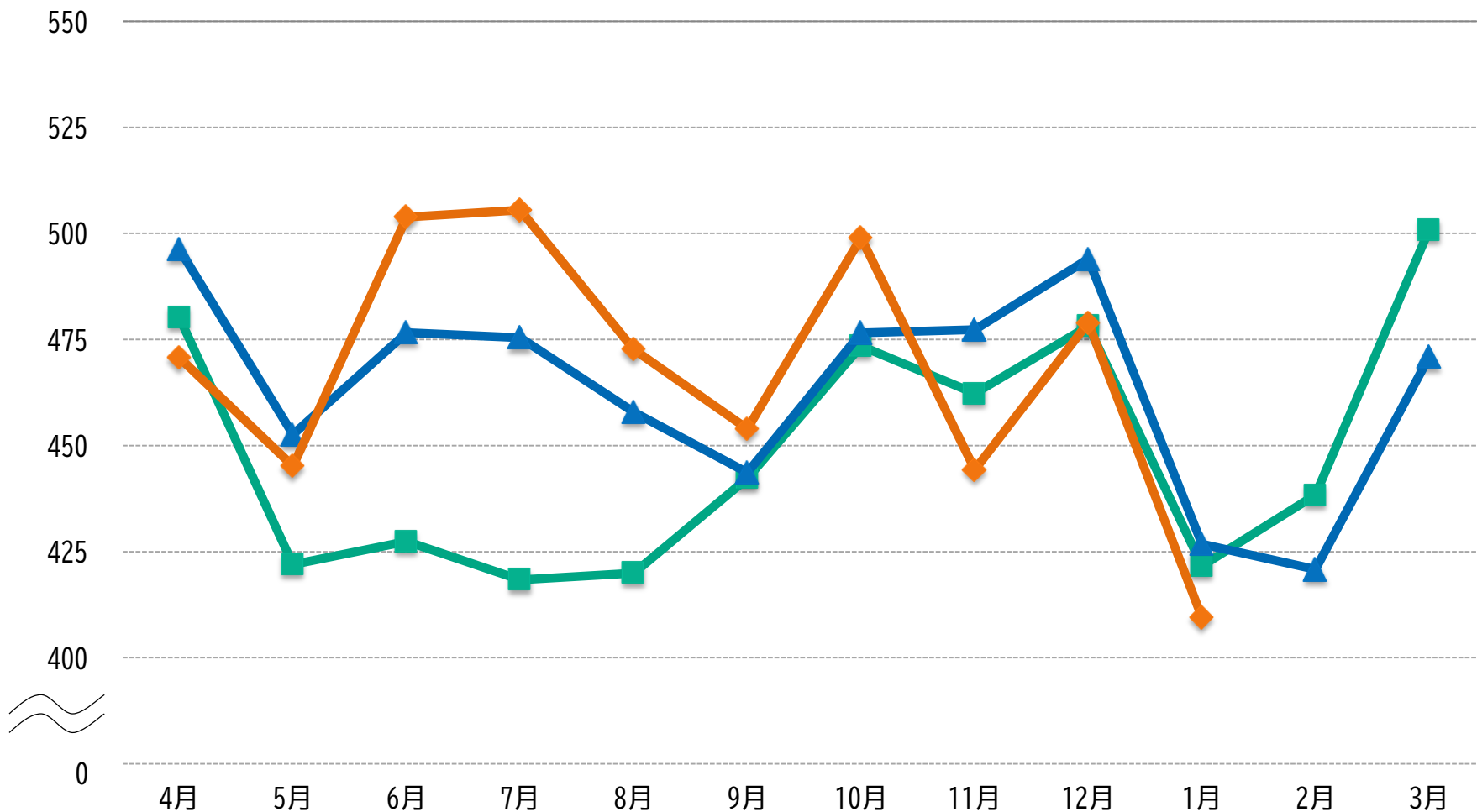
京浜港コンテナ取扱本数 輸出入合計

(千TEU)

■ 21年3月期

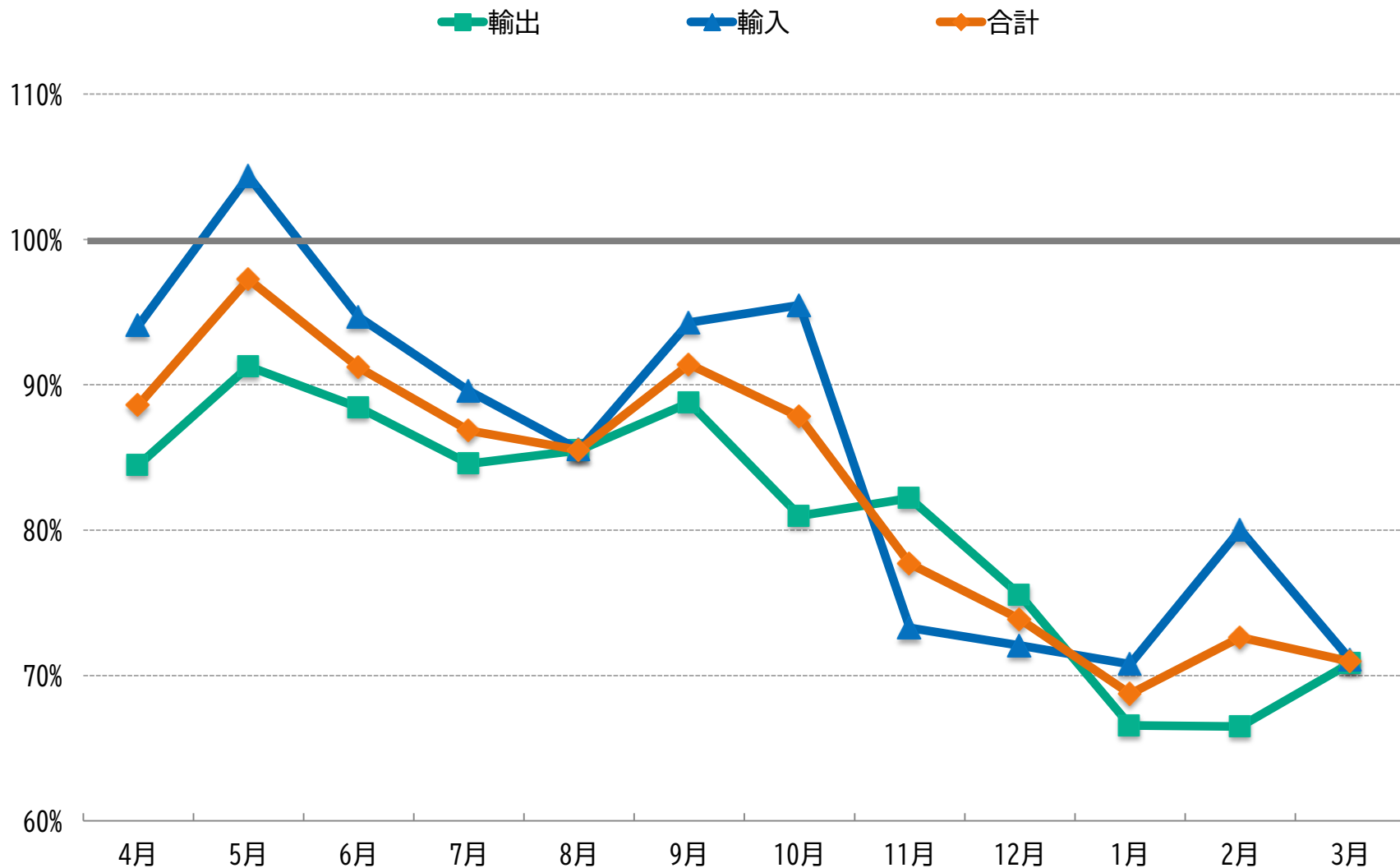
▲ 22年3月期

◆ 23年3月期



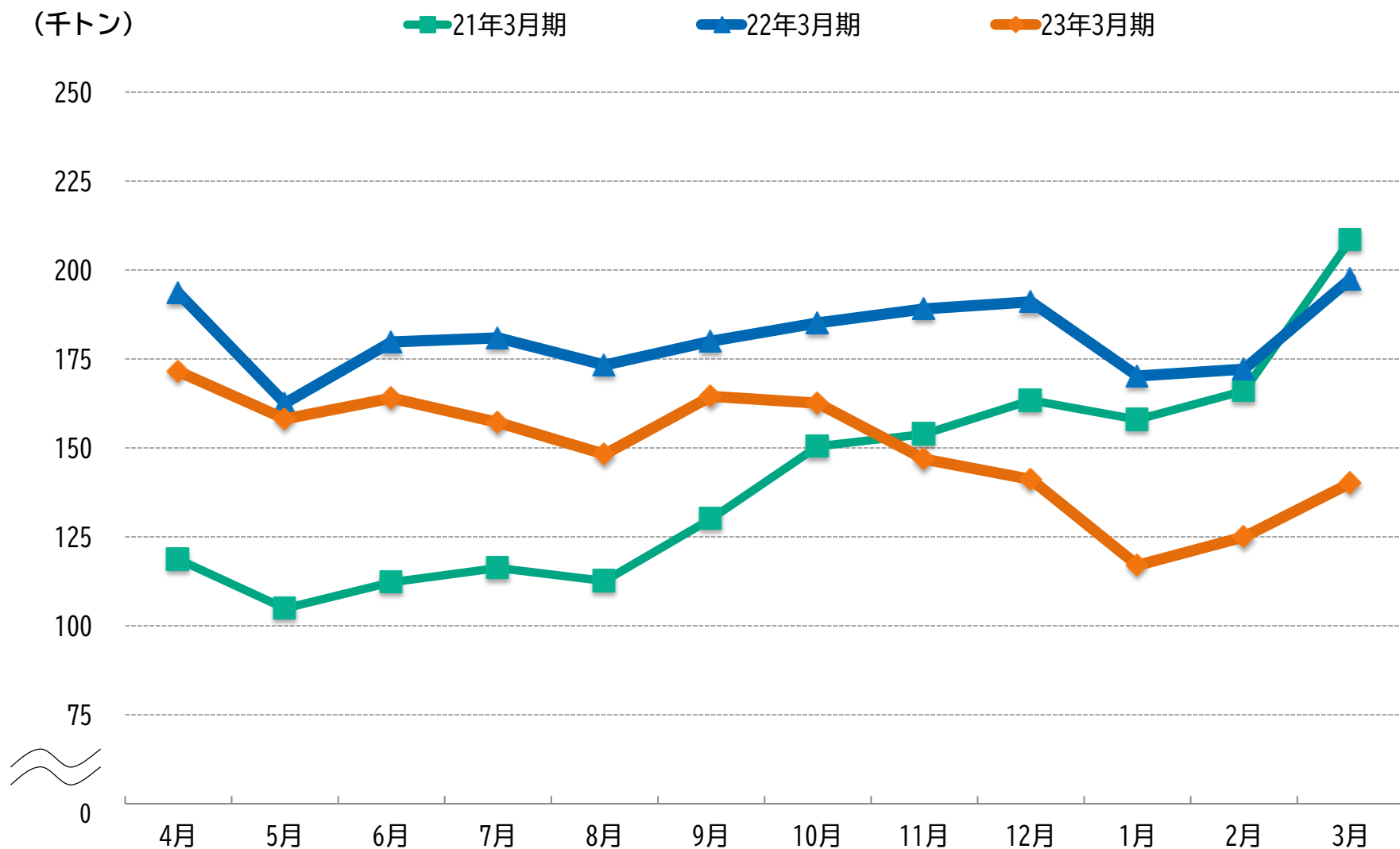
データ出典：東京都港湾局 港湾統計、横浜市港湾局 横浜港の統計

国際航空貨物取扱量（t数ベース） 前年同月比



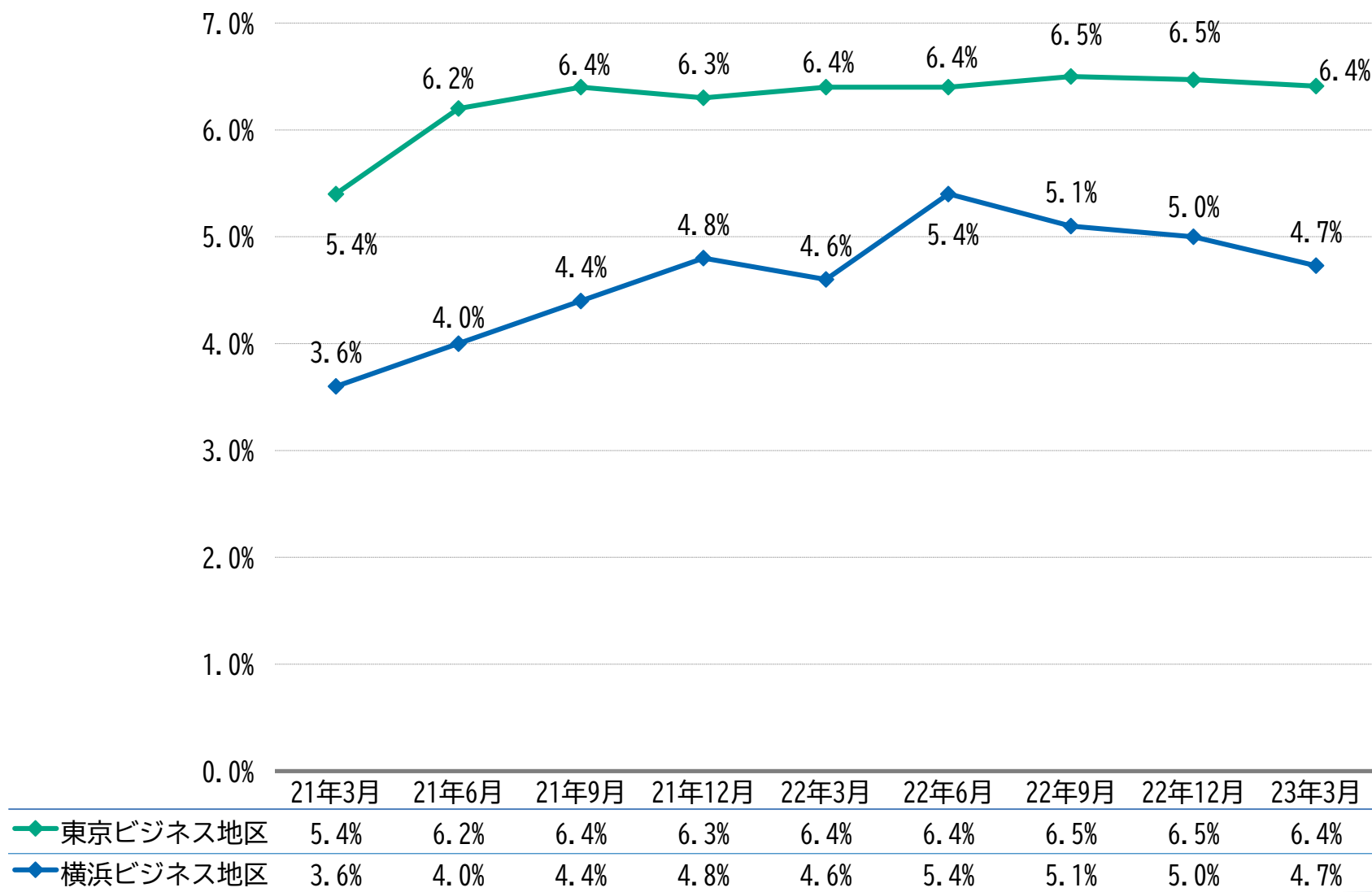
データ出典：一般社団法人 航空貨物運送協会

国際航空貨物取扱量 輸出入合計



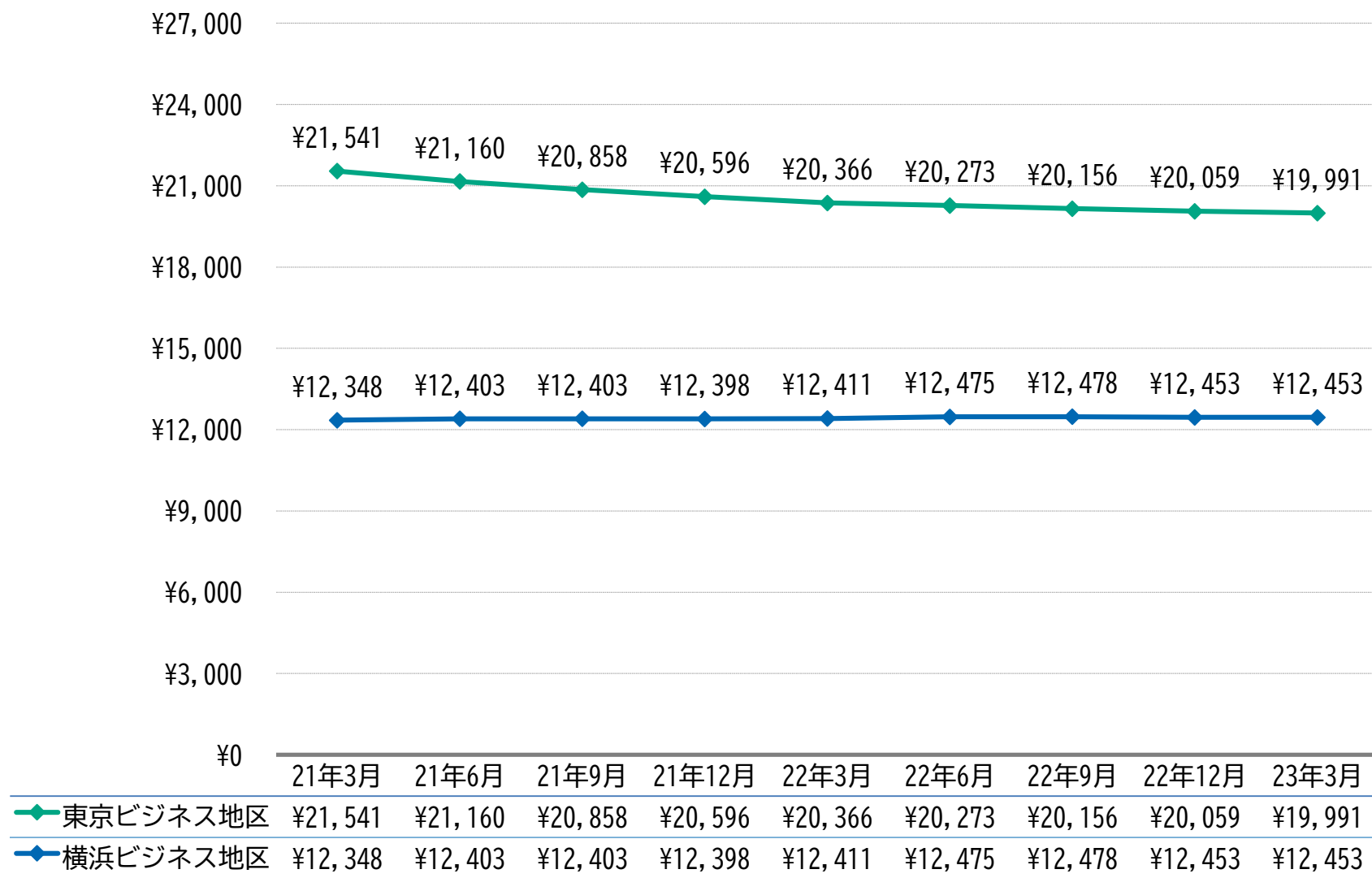
データ出典：一般社団法人 航空貨物運送協会

不動産 空室率



データ出典：三鬼商事株式会社 市況・データ情報

不動産 募集賃料相場（円／坪）



データ出典：三鬼商事株式会社 市況・データ情報

いま見える未来は、超えていける。

安田倉庫は、挑戦を続けます。

国境も、従来の物流の枠も超える、ボーダレスなロジスティクスカンパニーへと進化するために。

そして、お客様が思い描く事業と社会の新しいかたちを創造するために。

Logistics, Progress, Borderless.

YASDA

安田倉庫株式会社

当資料は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。当資料は、将来の業績に関する記述が含まれております。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであります。

将来の業績は、経営環境等の変化に伴い、目標や計画に対し変化し得ることにご留意下さい。

投資を行う際には、必ず弊社が作成する有価証券報告書等をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。